

令和2年度京都BCP企業交流会開催結果報告書

- 1 日時・場所 令和3年1月13日(水)14時~16時・京都経済センター 6階 6-B、C会議室
- 2 主催 京都BCP推進会議(京都府、京都府商工会議所連合会、京都府商工会連合会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、京都府中小企業団体中央会等)
- 3 参加者数 76社107名(来場、オンライン参加含む。)
※BCP(事業継続計画)の策定、見直しを検討している一般企業を対象

4 講演内容

(1)「事業継続力強化計画の概要について」

講師：近畿経済産業局 中小企業課 中村 隆 氏

- 内容：・大企業のみならず取引先となる中小企業もしっかりと対策をしておかないと供給がストップしてしまうことになる。
- ・令和元年より事業継続力強化計画の認定制度を開始した。開始当初は対象とする危機事象を自然災害のみとしていたが、本年度(10月以降)からは新型コロナウイルス感染症も対象とした。
 - ・計画認定されると税制優遇や補助金優先採択等(令和2年度においては、ものづくり補助金での加点)メリットがあり、「事業継続力強化計画策定の手引き」を作成し、申請フォーマットと併せて中小企業庁のホームページ上に掲載されているのでご活用の上、申請されたい。

(2)「BCP・我が社の取り組み」

講師：協栄エコソリューション株式会社 代表取締役 寺重 裕弘 氏

- 内容：・BCP策定のきっかけは中小企業家同友会の取組の一環で、京都府を講師に招き、BCP策定ワークショップを開催した。
- ・当社では、月に1回「まるまる1日ミーティング」として銘を打ち、BCPの内容について検討する場を設けている。
 - ・事業継続のためには仲間との連携が大切であり、中小企業家同友会の会員間や他県の企業と日頃から連携している。

- 質疑応答：・他県の企業との連携について、原材料の調達は具体的にどうしているか。
→似た業種の企業と人の融通や車両の提供について連携することとしている。
- ・連携先をどのように見つけてきたのか。
→中小企業家同友会の会員であり、会員間で連携している。

(3)「自然災害とコロナ禍の経験から学んだ事」

講師：株式会社マキノデンキ 代表取締役 牧野 伸哉 氏

- 内容：・平成30年の豪雨被害をきっかけにBCPについて取り組むようになった。
- ・発災当時は電話が鳴り止まず、対応に苦慮した。
 - ・自社のBCPには、「発災後の担当者役割分担」や「連絡先」等の必要事項や、「自社の改善ポイント」を記録しておき、年度末にとりまとめて、新年度のBCPに反映することになっている。

(4)「『WacoalのBCM』 新型コロナ対策本部の指揮~ワークショップ~」

講師：株式会社ワコール 総務部 危機管理課長 長葎 雅博 氏

- 内容：・新型コロナウイルス感染症対策本部のワークショップを実施。

- ・在宅勤務中の職員が接触確認アプリから濃厚接触者の連絡を受けたと想定し、自社の新型コロナ対策本部長として、人事系部署（職員へのヒヤリング、勤務等について）と総務系部署（事業所内の感染拡大防止施策について）等、PCR『陽性』を踏まえ保健所との連携の前にどのような準備・指示が必要かシミュレーションを実施。

質疑応答：BCPの取組は着任前からあるのか。

→当社では2013年にBCPを策定していたが、着任時には形骸化しており、新しい概念に基づき、実効性を重視した事業継続計画を再策定した。